



認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう みんなる

mingle

2024.7
Vol.78



たぶんかギャラリー

<ジンバブエ>

ビクトリアの滝

たぶんかフリースクール荒川校

タンデカさん知人撮影

Top News ...1

わたしのくに紹介 ...1

特集：... 2・3

ハートフル日本語適応指導事業... 4

多言語高校進学ガイダンス... 5

フリースクールスポーツ大会... 6

活動報告（フリースクール）...7

活動報告（土曜日学習支援教室）...8

先生・スタッフの声... 9

活動報告（放課後教室・高校支援）...10



ジンバブエ



急増する外国ルーツの子どもたち

代表 栢木 典子

2024年度がスタートして、3ヶ月が過ぎました。梅雨の季節とはいえ、すでに酷暑の日々が始まっています。コロナ禍がやっと収束状態となり、以前の日常が、徐々に戻ってきています。

4月以降、都内全域からの学ぶ場所を求める保護者からの教育相談が続き、3ヵ月間で74件に上っています。電話やメール、そして、突然の飛び込み相談も増えています。また、6月30日に東洋大学で開催した多言語高校進学ガイダンスでは、昨年度を上回る中学生、既卒生及び保護者の方159名の参加がありました。

外国にルーツを持つ子どもたちは、昨年度を上回り、急激に増加しています。その多くが、ひらがなやカタカナから学ぶ日本語初期指導の段階の子どもたちです。少しでも、早く日本語ができるようにと、学校だけでなく地域の学びの場を探しています。小中学生には、土曜日ボランティア教室、金曜日の放課後教室を案内し、進学を目指す既卒生等には、フリースクールの入室相談で対応をしていますが、受入れのキャパを超える状況が生じています。

どの地域に住むかで、受けられる教育に差があるという日本語支援の地域格差が問題になっていますが、急増する外国にルーツを持つ子どもたちへの最初の集中した日本語支援は非常に重要で、地域の連携がより必要となっています。

わたしのくに紹介 ～ジンバブエ共和国～



今号の「わたしのくに紹介」は、アフリカの南部にあるジンバブエ共和国です。たぶんかフリースクール荒川校のタンデカさんの出身地です。イギリスの植民地時代はローデシアと呼ばれていました。日本より少し大きな面積の国に1,600万人の人びとが暮らしています。70%の人がショナ族です。タンデカさんは2番目に人口が多いインデベレ族の出身です。3つの文化遺産と野生動物で有名な2つの自然遺産、合わせて5つの世界遺産があります。国旗に描かれた大ジンバブエ鳥はジンバブエの歴史の象徴で、自由を意味しています。



表紙の写真は「ビクトリアの滝」です。

ザンビアとジンバブエの国境にあります。イギリス人がこの名前をつけました。ショナ族の言葉では「モシ・オ・トゥニャ（雷が鳴り轟く水煙）」と呼ばれています。

私は中学校の遠足でビクトリアの滝に行きました。子どもだったのでボートに乗れず、橋から滝を見ました。水が落ちる音はとても大きく、本当に雷が落ちたみたいな音でした。大きな虹もできて、とてもきれいでした。

一番有名な食べものはサザ（sadza）です。とうもろこしをつぶして粉にしたあと、水を混ぜて作ります。味つけはなく、肉のカレーや野菜と一緒に食べます。とても美味しいです。

外国から日本に来て、日本語がわからない状態で小中学校に転入して苦労しているという話を聞くことが多いのではないのでしょうか。母語ができる先生が週に何回か来て通訳や簡単な日本語を教えてくれるけれど、数か月で終わってしまうという話も聞きます。東京では日本語支援の地域格差が大きく、学校での支援について外からはなかなか見えにくいです。ここでは、東京の中学校の日本語学級の現状についてご紹介します。

1. 日本語学級とは

日本語指導が必要な生徒が10人以上いれば開設でき、生徒20人までは1学級・教員2名、21人～40人では2学級・教員3名、41～60人では3学級・教員4名が配置されます。生徒は通常クラスに在籍して、自校生徒は国語や社会など日本語力が低いと参加しにくい教科の時間に通級します。他校通級生は午前または午後2時間日本語学級に通級して指導を受けます。指導形態は個別、または2、3人の小グループが多く、指導時間は生徒の日本語力に応じて週6～1時間程度で、指導期間は小中合わせて2年間で原則です（延長可）。

2. 指導者

指導者は正規の教員です。他の教員と同じ立場であるため、学級担任や教科担任などと連携がとりやすく、教科学習、進路学習、学校行事、給食など生徒の学校生活に合わせた実践的な日本語指導ができます。例えば、宿泊行事の事前学習で、いつ・どこに・だれと行くのか、そこで何をするのか、などを日本語で表現する授業や、理科の実験の前にどんな実験をするのか理科室から実験器具を借りてきて学び、実験の後には実験の結果と考察をまとめるという教科を取り入れた授業もできます。もちろん、他の教員と同じく、校務分掌や部活動、委員会など学校全体の仕事があります。

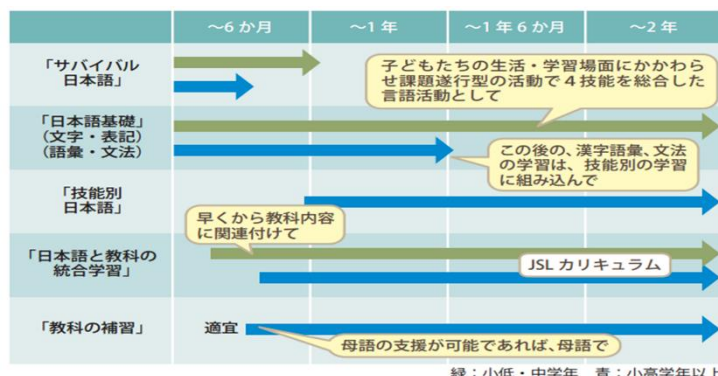
正規の教員であるため公務員としての待遇が保障されています。一方、「日本語」の教員免許がなく、「日本語」としての採用がないため、他教科で採用された教員が日本語学級に配置されるので、日本語指導の経験、知識のない教員も多数います。ただ、新規採用時に日本語配属希望の枠ができ、異動時にも日本語指導経験や指導希望を伝えることができます。

3. 指導内容

日本語学級では「特別の教育課程」を編成し、生徒の日本語力を踏まえて生徒一人ひとりに「個別の指導計画」を作成して指導しています。“「特別の教育課程」による指導とは、児童・生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的として、児童・生徒が学校生活を送る上や教科等の授業を理解する上で必要な日本語の指導を、在籍学級の教育課程に位置付け、在籍学級以外の教室で行う教育の形態です。”

と東京都が明記する通り（※2）、生活言語だけではなく、学習言語を獲得することが目的であることが特徴です。

図の通り、日本語ゼロで学校に入ってきた生徒が、学校生活を生き抜くために必要な語彙・表現を学ぶ「サバイバル日本語」から、文字・表記・語彙・文法などを、学校生活や学習の場面に合わせて4技能（読・聞・書・

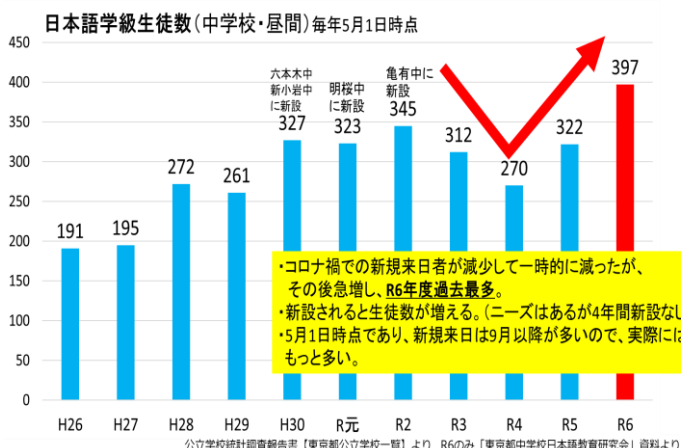


文科省「外国人児童生徒受け入れの手引き」より

話)を統合させた「日本語基礎」、読解や作文、スピーチ、面接などの「技能別日本語」、教科の力と日本語の力の両方を伸ばすことを目的とした「日本語と教科の統合学習」、「教科の補習」や進路学習など、様々な学習内容を組み合わせて指導しています。

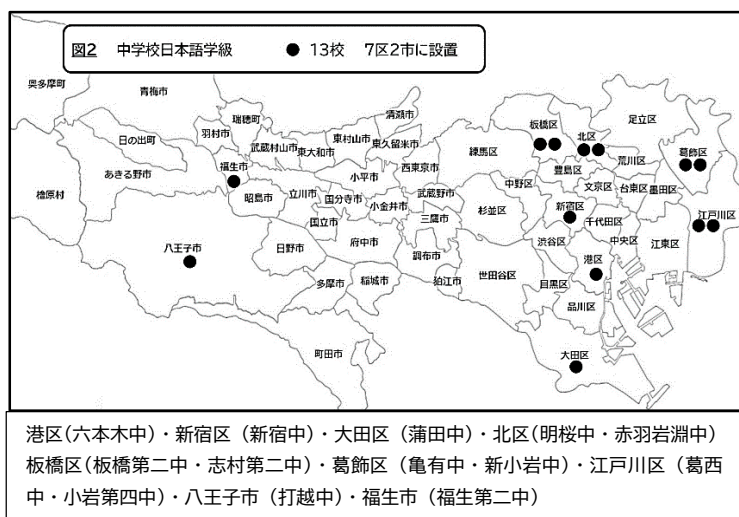
4. 学級数・生徒数

2024 年 5 月 1 日現在、東京都の日本語学級は 13 校で、生徒数は 397 人です。グラフのとおり、新しく日本語学級が併設されると生徒数が増える傾向にあり、コロナ禍で一時的に減少したものの、コロナ後に急増しています。5 月 1 日以降も新規来日生徒が増え、実際にはもっと多くの生徒が在籍しており、特に外国との学期の違いから、秋以降には増える傾向にあります。



5. 課題

生徒が急増するものの中学校ではここ 4 年間日本語学級が新設されておらず、新規入級を待機してもらったり、今学んでいる生徒の指導時数を減らしたり、指導期間が長い生徒の指導を終了するケースが増えています。そして、地図の通り、日本語学級があるのは 9 区市のたった 13 校のみです。都の調査によると日本語指導が必要な中学生 1,346 人のうち、ボランティア含めて何らかの指導を受けている生徒は 1,191 人ですが、そのうち「特別の教育課程」のもと、授業を理解し学習に取り組むことができるような日本語指導を受けているのはわずか 439 人



で、そのほとんどが日本語学級の生徒です。そして、何も指導を受けていない生徒が 155 人もいます(※2)。

筆者は日本語学級を指導して今年 7 年目になりますが、大学や専門学校に合格した、就職が決まった、という教え子が出てきました。たまたま、住んでいる地域に日本語学級があったから、たまたま、いい先生に出会ったから、ではいけません。各区市に日本語学級が必要です。

日本語の初期指導は多くの地域で行われるようになりましたが、初期指導が終わった後も学校の授業参加が難しい生徒たちが日本語と教科を統合させて学ぶ場は不十分です。さらに、「日本語指導が必要な児童生徒数」にすらカウントされていない、日本語力の問題で授業が理解できず、支援を受けられていない生徒もたくさんいます。日本語指導をボランティアや非正規雇用教員任せにせず、各区市に日本語学級を設置し、きちんとした待遇で正規教員が行えるような体制を作ることが必要です。

※1：田中阿貴さん：多文化共生センター東京で 10 年間働いた後、教員となり英語教員 4 年を経て、北区立赤羽岩淵中学校日本語学級 6 年、この 4 月から現職。

※2：令和 6 年 4 月東京都教育委員会「日本語指導に関する資料」

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/japanese/files/document/r6-3.pdf>

【協働事業 】 荒川区立小中学校：ハートフル日本語適応指導事業

荒川区は東京都の北東部に位置し、人口の約 10 分の 1 が外国籍住民です。ハートフル日本語適応指導事業は、「日本語初期指導を行い、学校生活や社会生活にスムーズに適応できるよう支援する」という目的のもと 2008 年から始まり、少しずつ形を変えて現在に至っています。対象は区立小中学校・幼稚園・こども園に在籍する日本語指導が必要な子どもたちです。私たち多文化共生センター東京は、中学生の初期指導と小学校高学年及び中学生の補充学習指導を担当しています。



中学生の通室による初期指導は、一日 3 時間、週 4 日、3 か月間行うことができます。外国につながる生徒が中学校に編入学した時に日本語指導の必要性を判断して、学校から教育委員会に申請します。私たちは区教委から連絡を受け、指導開始日を決定します。生徒たちは朝、在籍校で出席確認をして、それから区の中央部にある教育センターに徒歩、電車、バスなどでやってきます。日本語の学習が終わると、在籍校に戻り、給食を食べて午後の授業に合流します。大半はまったくの初心者で、あいさつなどのサバイバル日本語とひらがなの読み書きから始めます。週 12 時間継続して系統立てて

学習するので、最初は名前しか言えなかった生徒が、一日一日と新しい言葉を覚えて表現できるようになっていきます。同じような立場の他の学校の生徒と交流できる場もあります。通室終了時には、たいていは、仮名だけでなく小学校 1、2 年生レベルの漢字を身につけ、身近な事柄についてやり取りができるようになります。また、自分の国や町について 3 分程度の発表をします。

その後の補充学習指導は、下校後の夕方に一日 2 時間、週 3 回、原則として 3 か月間学習できます。個人差は大きいですが、平均的には初級文法の大部分を終了して、日本語でのコミュニケーションに慣れ、300 字前後の作文が書けるようになります。耳から日本語が入っていてもなかなか発話につながらなかった生徒が、急に伸びてきて会話できるようになったりすることもあります。小学生の場合は、初期指導は各学校に派遣される日本語指導員が行いますが、その後、5・6 年生の児童は私たちの補充学習指導に参加できます。小学生の場合、日本語力は極めて個人差が大きく、各自の習熟度に合わせて学習を進めます。

小中学校とは事務連絡だけでなく、定期的に訪問して、先生方と情報を共有するようにしています。ハートフルでは元気に話していても、学校では無口な場合も少なくなく、様子をお伝えすることは児童生徒の可能性に気づいていただけるきっかけになると感じています。



昨年度は過去最高の児童生徒数で、あたふたしました。今年度は継続の生徒が 5 名、新しい生徒が 8 人入ってきて、グループに分かれて学習を進めています。

ハートフル事業は初期にまとまった学習ができる良さがありますが、半年で習得することには限界があります。学校の先生方からも指導期間延長の要望を多くいただいています。継続的に日本語が学べる体制を荒川区が整備してくれることを願いながら、今は、教材を見直したり指導計画や指導法を工夫したりしながら、効率的に日本語の土台を作る授業を展開するよう努めています。【講師 泉博子】

6月30日(日)に文京区東洋大学白山キャンパスで「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を行いました。

今回は構内に会場を2つ設けて実施しましたが、当日は74家族159人が来場し(表1)、昨年度を超える人数の生徒と保護者の相談に対応しました。相談者にルーツのある国・地域は13ヶ所におよび、英語、タイ語、タガログ語、中国語、ネパール語の5言語に加えて、ミャンマー語とベトナム語の通訳を介して説明を受けられるブースを設置しました。

参加数(家族)	159名(生徒67名、保護者等92名)74家族 ※2023年136名(生徒63名、保護者等73名)63家族
ルーツのある国・地域	イエメン、イラク、ウクライナ、タイ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、中国、台湾、日本

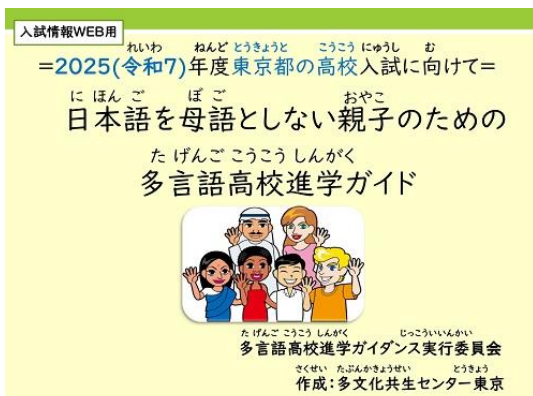


会場では、高校の種類や入試スケジュール、出願までに準備するもの等についての全体説明を行った後、通訳者を交えて高校教員や支援団体に個別に相談できるブースに案内しました。



相談ブースでは、高校の具体的な様子についての質問のほかに、自身の中学校の成績から考えて進学先が見つかるのか、来日時期などの条件で特別措置のある入試の受験資格がない場合、進学をあきらめなければいけないのかといった不安を口にする生徒や保護者も多く、実際に教員と話せたことで心配が少し軽減された方もいました。

◎ガイダンスに関する最新のスケジュールや高校入試に関する情報は、当センターや進学ガイダンスのHPで見ることができますので、こちらもぜひご活用ください。「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイド」も日本語・英語・中国語で読めます。



◆ ウェブサイト「多言語高校進学ガイダンス in Tokyo」

<http://www.tokyoguidance.com/>

◆ 今後のガイダンスの開催予定



・7月28日(日) @大田区(都立六郷工科高校)

問合せ: 一般社団法人レガートおおた

・9月8日(日) @八王子市(八王子市学園都市センター)

問合せ: NPO 法人八王子国際協会



スポーツ大会



6月27日(木)、ご支援をいただいている株式会社セールスフォース・ジャパンの社員ボランティアさんと一緒に台東リバーサイドスポーツセンターにてスポーツ大会を行い、生徒・社員さん・スタッフあわせて48名が参加しました。

今年度初めてのイベントを前に、公共交通機関を利用する際のマナーやボランティアさんとの行事について時間をかけて説明しました。生徒たちはしっかりと聞き、当日はスムーズに動くことができました。



自己紹介と準備体操のあと、ウォーミングアップでラケットリレーを行いました。1戦目は大差で勝敗が決まりましたが、作戦会議のあとの2戦目では差が縮まり、それぞれのチームの応援も盛り上がりました。

その後、希望していた3つの競技、卓球・バドミントン・バスケットボールを楽しみました。どの競技でも社員ボランティアさんがにこやかに話しかけてくださり、すぐに打ち解けていく様子がみられました。

コロナ禍で中学生時代を過ごした彼らは運動する機会が少なかったのかもしれませんが、「私はできない」という言葉の背景に「したことがない」「してみたいけど…」

「うまくできないとはずかしい」が隠れています。ボランティアのみなさんや友だちからの優しい励まして、さまざまな「初めて」に挑戦し、「できた!」「たのしい!」瞬間がたくさん生まれました。

思い切り身体を動かし、大きな声で仲間を応援する体験は生徒たちにとってかけがえのないものになったと思います。セールスフォースのみなさん、このような機会を一緒に創ってくださり本当にありがとうございました。



セールスフォースのみなさんへ

こんにちは わたしは ~~***~~ です タイから来ました。

きのうのスポーツ大会で バドミントンとピンポン

バスケットボールをしました。きのうは たのしかったです

ピンポンは、むずかしかったです。バドミントンは いちばん

がすきです。でもきのうはうれしかったですがつけられました。

セールスフォースのみなさんは、かわいい といふせうな

みなさんは じょうずです。セールスフォースのみなさん

ありがとうございました。

セールスフォースの
皆さんへ こんにちは

私は ~~***~~ です。中国から来ました。

昨日スポーツ大会で バドミントンと卓球

をしました。

卓球は はじめてしました、とても

難しかったです ~~***~~さんは教

えました。楽しかったです。

バドミントンは、うれしかったです。

すべての 相手は上手です。

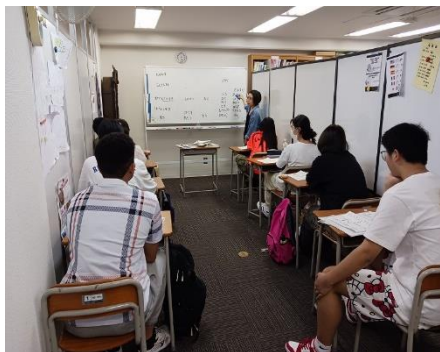
スポーツ大会 はとても楽しかったです。

セールスフォースの皆さんは

ありがとうございました

たぶんかフリースクール荒川校

10年ぶりの「たぶんか」。もうすぐ1年になります。今、担当しているクラス（英語）は8人4カ国から。中国、モンゴル、イエメン、タイ。これまでのどんな選択も違ったものであったとしたら出会えなかったであろうみんな。とてもいとおしく思います。まだ日本語学習歴も浅く、英語も苦手な8人ですが、常にポジティブ、一生懸命。互いのミスや言いよどみにも程よく助け舟を出しあい、午後の時間が過ぎていきます。10分間の休み時間には、もう一方のクラスのメンバーが流れ込んだり流れて行ったり。多言語が飛び交うカオスの時間はあっという間に終わります。



中国語もモンゴル語もアラビア語もタイ語も私は話せない。みんなすごいなあ。なに話してるんだろう。休み時間、微妙なニュアンスも交えながら自身の母国語を操るみんなに、いつも惚れ惚れします。慣れ親しんだ土地を離れ、日本語の海を泳ぎ続けるひとりひとりに心から respect しています。

異文化の中で否応なく廻り始めたみんなの時間。今のうちにたくさんさんの失敗経験を。でも意地の悪い日本人にはできるだけ会いませんように。「たぶんか」で過ごす限られた時間はどうか笑い多きもの

に。日々を共に生きる仲間、同士のような思いと願いで目の前のみんなと接しています。

【講師 飯沼晶子】

たぶんかフリースクール杉並校

さわやかな初夏の候、ここ杉並校のお昼休みはにぎやかです。黒一点の中国男子 L さんがスマホの軽快な音楽に合わせて得意の TikTok ダンスを披露し、女子たちの喝采を浴びています。4月から始まったこのクラス、国籍は中国・ネパール・韓国。例年クラスにひとりぐらいは最初は斜めに構えている生徒がいるものですが、このクラスは全員が素直ですぐにみんな仲良くなりました。7名中6名が日本語ゼロからのスタートで、勉強面ではやや厳しいのですが、日本の中学に一年間在籍した B さんが上手に皆をサポートしてくれています。



青空の下、今度はお庭でバトミントンが始まりました。彼らの無邪気な歓声を聞いていると、世界中どこもこんなふうに国境を越えて平和だったらいいのにと思ったりします。

さて、初夏の楽しみは卒業生たちのサプライズ訪問です。今年の春に送り出したばかりの生徒たちが数人ずつ連れ立って、おしゃれな今風な制服に身を包んで現れます。「中間テスト難し

かった」「バレーボール部に入って、朝練が大変」「日本人の友達ができた」等、ロクに楽しそうに報告してくれます。そして後輩たちにはちょっとえらそうに「漢字の勉強が大切」「文法もがんばって」と実感のこもったアドバイスをしてくれます。

今年の新入生たちも、どうか一年後には先輩たちと同じように笑顔で訪ねて来てくれますように。

【講師 水野朋子】

ボランティアの活動報告

土曜日学習支援教室

今回は、高校生のボランティアさんからの報告と 4/13 に実施した防災学習の報告を掲載いたします。

昨年から多文化共生センター東京の土曜日学習支援教室に参加しています。「となりの外国人」という本でこちらの活動が紹介されていて、外国にルーツを持つ子どもたちが様々な困難に直面していると知り、ボランティアを始めました。

ここでの活動を通じて感じるのは、子どもたちの表現力や独創性の素晴らしさです。会話や文章の中で、子どもたちがどのように言葉を紡ぐかに着目すると、それがとてもユニークで面白いことに気づきます。子どもたちのさりげない表現が、たくさんの新しい発見をもたらしてくれます。次はどんな言葉で感じていることを教えてくれるのかなと毎回楽しみです。また制作活動をするときは、一人ひとりの個性がよく表れた作品が魅力的です。子どもたちがいきいきと、そしてのびのびと取り組む様子は見ていて飽きません。

多文化共生センター東京が、ありのままでいられる場所だからこそ、子どもたちの自由な発想が生まれるのだと思います。この環境は職員の皆さん、ボランティアの皆さん、そして様々なルーツを持った子どもたちが共に作り上げてきたものだと感じています。国籍、言語、文化などのあらゆる違いを尊重し、お互いを認め合えるこの場所に、今後もボランティアとして関わっていきたいです。【ボランティア 渡邊胡桃】



防災学習報告

土曜日学習支援教室で、4月13日午後2時から1時間、荒川消防署から4人の職員に来ていただき、次の三点について防災学習を行いました。学習者の親も参加しました。

119番への電話のかけ方：(1) 消防か救急か、(2) 何が起きているか、(3) 住所または場所の説明（「コンビニが見えます」など）を伝えます。参加者たちは、「火事です。隣の家でゴミが燃えています。住所は荒川区〇〇です」などと、電話機を使って消防署の方に説明しました。

消火器の使い方：消火器を持ち、できるだけ火に近づいてからピンを外し、ハンドルを握って消火します。参加者たちは、消火剤の代わりに空気が出る消火器と、火が描かれた的を使って、消火器で消火する練習をしました。

地震への備え：(1) 屋内では机の下に隠れる、(2) 屋外ではカバンなどで頭を守る、とにかく頭を保護することが大切です。参加者たちは、実際に机の下に隠れてみました。

ビデオを見ながら学習したあと、実際に練習してみたので、参加者たちの理解を深めることができたと思います。ボランティアの戴（タイ）さんが中国語の通訳をしてくださったので、中国人参加者の助けになりました。最後に、消防署からたくさんのお土産をいただきました。防災学習は重要な課題なので、今後も定期的の実施していきたいと考えています。【ボランティア 本田恵理】



消火器を使った消火訓練



机の下に身を隠す

今年度フリースクールに入った先生方を紹介します。

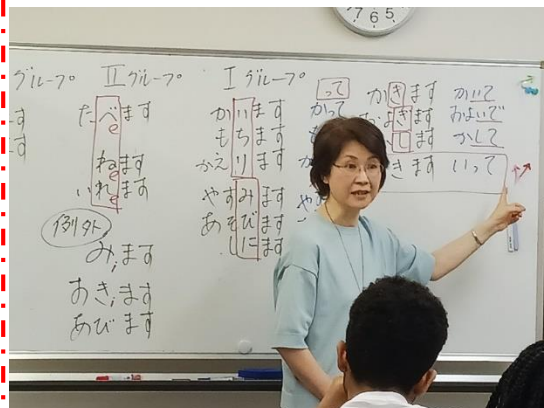
先生の声



縣（あがた） 正子先生（日本語）

住んでいる国の言葉ができないのはとても残念なことです。かつて異国で言語弱者だった私は帰国後、その経験から日本語教師の道を選び、日本語習得を目指す様々な人たちをサポートしてきましたが、いつも、最も日本語を学ぶ必要があるのはどんな人達だろうかという思いが頭の中にありました。そして今、多文化共生センター東京で「日本語を本当に必要とする若者達」の存在を強く感じています。何かの縁で日本に住むことになった彼らが今の状況乗り越え、複数言語を操る能力を生かし、日本社会の中で自己実現できるように少しでも手助けができればと思います。

「果てしない日本語の海を一生懸命漕ぎ進む皆さん、健気で頼もしいです。どうか安全な港にたどり着きますように。そしてそこから、あなたの宝の島を目指してください！」



佐藤 亨先生（数学）

今年度から数学を担当しています。前職では40年間、もっぱら大学生を相手に過ごしてきました。これまでほとんど接触する機会のなかった若い世代とつきあうことになり、とまどうことばかりですが、もう一度一緒に学び直すつもりで新たな日々を送っています。特に、外国ルーツの子供たちのさまざまな視点から日本の小中学校教育を見直すと、当たり前と思っていた「九九」をはじめとして、不思議なこともおもしろい発見もたくさんあって、毎日多くの刺激を受けています。高校入試というゴールは動かせませんが、フリースクールには指導要領に縛られない自由もあると思っています。知る喜び、理解する感動を、少しでも伝えることができれば望外の幸せです。



スタッフの



事務局 阿部秀樹



4月からスタッフとして、総務や広報、土曜日学習支援教室などを担当しています。前職は会社員として勤務しながら、国際協力や環境・エネルギー問題、在住外国人との共生などの社会課題に関心を持ち、国際協力や教育関係のNGOにボランティアや理事として関わってきました。現職場に入職し、会員やサポーター、ボランティア、企業の皆様からの多大なご支援により当センターの活動が成り立っていることを痛感しています。また、外国ルーツの子どもたちと接する中で、日本語力が十分でない子どもたちが学習面でとても苦労していること、日本語や教科の学習を通じて、少しずつレベルアップしていることを感じています。フリースクール等の先生方やボランティアの皆様が活動しやすいようできるだけバックアップしていきますので、どうぞよろしくお願いします。

たぶんか 放課後教室



子どもたちの支援と一緒に
行っている東洋大学の
学生さんからの活動報告です。

多文化放課後教室でのボランティアも2年目になりました。最初は人見知り
で誰に話しかけるにも遠慮してしまっていた私ですが、生徒たちが一生懸命勉
強する姿を見たり、明るく話しかけてくれたおかげで私自身の「心の
壁」を取り払うことができ、1年を通して自分から生徒に声をかけたり、一緒
に勉強したりすることに積極的になることができました。

今年度新しく多くの3年生がボランティアに参加することになりました。昨年
度よりもさらにパワーアップしたチームで活動できるよう、学生一同頑張りた
いと思います。【北岡萌】



2024年3月 スポーツ大会
於：東洋大学体育館。

私は留学生として放課後教室に参加することで、さまざまな
国や地域から来た生徒たちと交流したり、スタッフの方と一緒に
活動したりすることで、私自身も日本語やコミュニケーション
能力を磨くことができました。また、生徒たちが小学生や中
学生の段階で日本に来る大変さ、そしてそれでも将来に希望を
持つ生徒の姿を知ることができました。生徒とは、日本語だけ
でなく、中国から来た生徒たちのサポートを中国語ですること
もあります。昨年度の卒業生のなかには、高校生になった今年
度も放課後教室に参加している生徒もいます。放課後教室が生
徒たちにとっての居場所として重要な存在となっていて、活動
の社会的意義を実感しています。【林曉虎】

高校支援

外国につながる高校生への支援相談窓口のお知らせ

2024年度は、多文化共生センター東京として、独自に高校支援の取組みを進めていきます。

現在「外国につながる高校生」が急増しています。今年度はこれまで在籍のなかった高校にも、多くの
「外国につながる高校生」が入学しています。こうした高校生は、日本語の壁、学習の壁、進路の壁など、
さまざまな壁に直面しています。これに対して学校現場からは、どのように対処したらよいのかわからな
いといったとまどいの声が聞こえてきます。

私たちは、これまでの支援の経験を生かして、こうした学校の悩みに応えるための学校からの相談窓口
を設置することにしました。

たとえば、こうした悩みはありませんか？

・生徒が日本語をどれくらいできるのかを知りたい	・在留資格について知りたい
・日本語指導してくれる人が見つからない	・進路指導の際の注意点を知りたい
・通訳を探すにはどうしたらいいかわからない	・どのような教員研修をしたらよいのか、アドバイスがほしい
・授業でどういう工夫をすればよいかわかりたい	

どのような相談でも結構です。

まずは、右のQRコードまたはURLから相談をお寄せください。

折り返しメールまたはお電話を差し上げます。

＜担当：坂本、小綿＞

<https://forms.gle/pvEgP3zdKmQMLiYL6>



ビジョン

私たちは、国籍、言語、文化の違いをお互いに尊重する多文化共生社会を目指しています。
外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ（エンパワメント）

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ（大変さ・楽しさ）を理解し、多数者である「日本人も」変わり、少数者とともに生きていく

ミッション

- ・外国にルーツを持つ子どもたちの教育機会の拡大に努めます。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちが個性や能力を発揮し、日本で活躍できるような教育の実現に取り組みます。
- ・国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

ご 支 援 の お 願 い

○当センターの活動や、当センターで学ぶ子どもたちをサポートするためのご寄付をお願いいたします。

一般寄付

多文化共生センター東京の活動全体へのご支援

- ▷ 都度寄付：1回限りの寄付をして活動を支援
- ▷ マンスリーサポーター：毎月定額を寄付して活動を支援（カード決済）

たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭等、子どもたちの学びを継続するための支援

次のいずれかの口座へのお振込み、または、クレジットカードからお手続きをお願いいたします。

- ・郵便局から：00110-8-407588／多文化共生センター東京
 - ・銀行から：ゆうちょ銀行／019店／当座 0407588／トクヒ）タブンカキョウセイセンタートウキョウ
- ※クレジットカードでのご寄付は、ウェブサイトからお申込みください。

○当センターの趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる会員を募集しております。

- ・正会員 年会費 5,000 円（正会員には総会での議決権があります）
- ・賛助会員（個人） 年会費 1 口 1,000 円、3 口以上
- ・賛助会員（団体） 年会費 1 口 30,000 円

みんぐる Vol.78 2024 年 7 月 発行

編集：多文化共生センター東京事務局 発行：特定非営利活動法人多文化共生センター東京

※「みんぐる」は、英語“mingle”＝「（2つ以上のものが各要素で区別できる程度に）混ざる・一緒にする・交流する」から名付けました。



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

【事務局・たぶんかフリースクール荒川校】

住所：〒116-0002 東京都荒川区荒川 3-74-6
(メゾン荒川Ⅱ201)

TEL/FAX：03-6807-7937

e-mail：info@tabunka.or.jp

Open：火曜日～金曜日…午前 9 時から午後 6 時

土曜日 …午前 10 時から午後 7 時

ウェブサイト <https://tabunka.or.jp>



【たぶんかフリースクール杉並校】

住所：〒167-0021 東京都杉並区井草 2-35-5
(杉並育英 SITEC（サイテック）内)

TEL：03-6915-0200

Open：火曜日～金曜日…午前 9 時から午後 6 時

フェイスブック、Xでも活動の様子を発信しています。
ぜひご覧ください！